

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和6年11月5日発行

和の心

校長 高橋 高志

小木小学校では、年間6回の「ふれあいタイム」という体験活動を行っています。この活動は、平成14年から23年間続いている小木小学校独自の教育活動です。地域の方を講師としてお迎えし、縦割り班毎に6年生の進行で「絵手紙」「茶道」「竹細工」「バルーンアート」「太鼓」「ニュースポーツ（モルック）」といった様々なジャンルの活動を年間1回ずつ体験することができます。また、先生方も一緒に参加し、体験を楽しんでいます。私も、時々参加させてもらっています。どの活動もとても魅力的なのですが、9月のふれあいタイムで茶道に参加した時のことが強く印象に残っています。

この日も、講師の桃井先生は、畳の上の歩き方や引き戸の開閉、そしてお茶の点て方やいただき方等、作法や所作をお手本を見せながら丁寧に教えてくださいました。（たとえ私や子どもたちがうまくできなくても、笑顔で優しく見守ってくださいます。）

そして、抹茶をいただいた後、茶碗を眺める際には、茶碗を目の高さまで持ち上げるのではなく、体をかがめて自分から茶碗に顔を近づけて低い位置で見ることを教えてくださいました。また、茶碗の制作者が一番大切にし、見てほしいのは茶碗の底の裏側の部分であるということもお話してくださいました。

私は、子どもたちと共に体をかがめ、茶碗を落とさないように気を付けながら茶碗の底の裏側を眺めました。そして、この茶碗を作った方の真剣な思いを感じ取ることができました。同時に、**物（道具）を人と同じように大切に扱う**茶道の精神に感動しました。

私たちの身の回りは物であふれ返っています。落としても割れないプラスチック製品や使い捨ての製品も数多くあります。そのため見失いがちになりますが、本来、**物には作った人の思いが込められている**のです。それを日本人はずっと大切にしてきました。今一度、自分や子どもたちの日頃の物の扱い方や、物に対する意識を見直そうと思いました。

このような**和の心、和の振る舞いは、世界に誇れるものであり、私たちが日本人として忘れてはいけないこと**だと思えます。子どもたちが、体験を重ねて少しずつでも理解していってくれることを願っています。